

ロシアは西洋の伝統主義者にとって「正常の契約の箱」

<https://www.rt.com/russia/578141-russia-ark-normalcy-westerners/>

RT

June 16, 2023

「何万という人々が家族を教育するために、この国に移住するだろう」とエヴゲニー・プリマコフは予言する。



ロシアは、伝統的な家族と文化的諸価値を大切にする西洋人たちにとって「正常と清澄の契約の箱」ark of normalcy and serenity として受け取られている、と人道主義的接触を担当する部局長、Evgeny Primakov は言った。このような何万という人々が、この国に向けて移住するだろうと彼は考えている。

プリマコフは Rossotrudnichestvo と呼ばれる、ある部局の責任者であり、それは多くある中でも、特に外国人との個人間交流を助長することを任務としている。彼は新聞イズベスチアとのインタビューで、木曜日、西洋の移民の再定着プロジェクトを強調した。

「私たちは、モスクワ地域の〈アメリカ村〉について議論している。我々は Serpukhov 近くに、この目的のために 27 ヘクタール (67 エーカー) を割り当てる計画をしている」と彼は言い、ロシア首都の南、約 100 キロ (60 マイル) にある、ある都市を説明した。

「もうすでに Yaroslavl 地域 (モスクワの北東 250 キロ) に移住しつつある外国人もいます。そして今後もっと増えるでしょう」と彼は加えた。

予定的可能性として、非友好国の NATO 諸国、アメリカ、及び、ヨーロッパからの数万の人々が、ロシアに移住しようと考えており、そのための実践的な行動を起こそうと用意している。

モスクワ地区の知事アンドレー・ウォロビエフは、彼の行政府が「アメリカ人」を収容しようとしていることを、今週、確認した。この地区は「あらゆる新しい住民を喜んで引き受ける。特に、何かすばらしいもの、役に立つもの、重要なものを持ち込む人々を歓迎する」と、彼はジャーナリストに話した。彼もプリマコフも、いま進行中の、「サンクトペテルブルグ国際経済フォーラム」の、関係事項を話していた。

関係資料：「保守的アメリカ人のための〈移民村〉がロシアに建設の予定」

<https://www.rt.com/russia/576204-conservative-migrant-village-russia/>

この「アメリカ村」は、イデオロギー的理由から自分の祖国を離れようとしている、アメリカやカナダからの 200 家族に、住居を提供する予定である、と、このプロジェクトに関わっているロシア移民弁護士は語った。来年か始まるその建設は、入居者自身によって資金集めがなされている、と Yimur Beslangurov は先月、説明した。

【訳者】 ロシアからこの情報と、次のアメリカからの情報を読み比べていただきたい。

「もしあなたが自分の子が大切なら、この州を脱出せよ」：
カリフォルニア共和党議員

<https://www.infowars.com/posts/if-you-love-your-children-flee-the-state-california-gop-lawmaker-2/>

Infowars/ Zero Hedges

June 15, 2023

⇒ 「私はこの州で生まれ教育された。私はこの州を愛している。しかしこの州には留まりたくない」と、州共和党上院議員 Scott Wilk は言った。

あるカリフォルニアの州上院議員が、親たちに対し「もし子どもたちが大切なら、この州を脱出せよ」と呼び掛けた。これは、新しいジェンダー同一性法案における、彼が驚くべき文言と呼んだものに対して、反応したものである。

スコット・ウィルク上院議員（共、サンタクラリタ）は、州の上院裁判委員会の、2人だけの共和党員で、11年も州の立法府に奉仕した、と Daily Signal は言い、彼は AB957 号法案の文言に警告を発した少数派の 1 人であり、これはある民主党上院議員によって、7月 5 日に改訂されたが、この州の家族法の内容が、子どもの「健康、安全、それに福祉」への要求と共に、「ジェンダーの肯定」を取り込んで書き換えられた。

AB957 号法案の下では、州議会女性議員の Lori Wilson (民) と Scott Weinet 上院議員 (民) の共同の文言によると、もし一人の親が、ジェンダー同一性 (gender identity) について、この人たちの主張を「肯定」しなければ、自分の子ども管理権を失うことになる。

「私は現在、州議会の 11 年目を務めているが、その間ずっと、我々は子どもを保護する政策を提案してきた。」

「11 年ののち初めて、私は、我々が必要とするのは、親を保護することだ、という結論に達した。こんなことは今まで起こったことがない。」

「私はずっとここにおいて、チャーター・スクールに対する真っ向からの攻撃を目撃してきた。それは、自分の子どもをどう教育するか親の自由を奪うもので、特に有色人種の子どもは害を受けている。」

「近年においては、我々は、特に子どものケアが問題になるときは、親、子ども、そして医者の中に、政府官僚を入れるようになった。そしていま我々は、AB957 を持っている。この法律では、もし親が政府のイデオロギーを支持しなければ、子どもたちは家庭から連れ去られることになるのだ。」——スコット・ウィルク

「私はこの州に生まれ、ここで教育を受けてきた。しかし私はもう、この州にいたくない。それはあまりにも抑圧的だ。私は自由を信ずるから、この議員をやめたときには、アメリカに対して動議を起こすつもりだ」と、ウィルクは続けた。…

[訳者 Greatchain 注]

ロシアとアメリカで起こっている、対立する両政府に対する、アメリカ人民の対照的な、反米・親露の反応に注目せよ！ 今のところ一部の動向とはいえ、彼らは自国からの脱出を願い、ロシアに永住の地を求めようとしている。嫌悪される国と慕われる国の差が、いま鮮やかになった。

プーチン大統領は、何年も前から、墮落したアメリカの影響が、ロシアの青少年に及ばないように、家庭の価値と宗教的伝統を守るのが、自分の役目だと言ってきた。それは口だけでなかった。ロシアは、モスクワ近傍の「アメリカ村」の積極的な計画によって、「イデオロギー」的に行き場をなくしたアメリカ人のために、居住地を建設し始めた。これが現在行われている「サンクトペテルブルグ国際経済フォーラム」の一環であるらしい。

これによって米露戦争の、勝負の行方が決まったのではないだろうか？ ロシアは悪魔だから「それは信用できない、畏だ、用心せよ」と言う日本人がいるかもしれない。そのような人々に私は断言する――そんなバイデンやゼレンスキーや NATO のような、詐欺師のようなことを、プーチンとロシア側は考えていない。ロシアは武器を使わず、さりげなく恨みを恩で返すようなことを計画している。これは掛け値なしに鬼と仏の差である。それはロシアの圧倒的な賢明さを証明している。日本政府とメディアが警戒するような、アメリカの覇権主義を真似るような愚かなことを、ロシアは考えていない。武力で圧倒的なロシアは、武力を使おうとは思っていない。そのロシア側の考えに、世界が次々に協力し始めているのではないか。